

(別紙8)

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 9月22日

【評価実施概要】

事業所番号	0173501214		
法人名	有限会社 ドリーム建工		
事業所名	グループホーム やちよ		
所在地	室蘭市大沢町2丁目26番15号 (電話)0143-41-7200		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成20年9月18日	評価確定日	平成20年9月30日

【情報提供票より】(平成20年8月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	16年	10月	15日
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	19人	常勤	18人,	非常勤 1人, 常勤換算 18人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費	光熱費:月額 15,000円 暖房費(11月～4月):1日 100円	
敷金	有 (45,000 円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含まれ)	有 () 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(8月25日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	6名	要介護2	4名		
要介護3	7名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.4歳	最低	76歳		89歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	新日鉄室蘭 総合病院 恵愛病院 とんけし耳鼻咽喉科クリニック ふじかね内科 福田歯科 黒田歯科
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホームやちよ」は開設4年目に入り、見晴らしの良い敷地内に小規模多機能型居宅介護に高齢者共同住宅を併設した新事業を増設し、地域で高齢者が安心して暮らせる環境を整えている。運営者は人と人との信頼関係を大切に、管理者、職員はその精神を具体的なサービス提供に生かし、利用者と向き合いながら暮らしを支えている。2ユニット間の交流があり、2階への階段昇降は機能訓練になり健康にも役立っている。利用者は、ほぼ毎日のように近隣のお寺や山へ散歩に出かけ、自由な雰囲気の中で、それぞれの得意な面を生かし職員と一緒に楽しんでいる。利用者本位の自然な暮らしが継続できるように、職員の体制を万全にして個別の望みを常に探り対応している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回外部評価の取り組みでは、理念は表現に囚われず本質が大切なので、現在のものを使用したいと考えている。また、同一法人小規模多機能型居宅介護事業所との合同訓練も視野に入れた防災訓練の検討も継続中である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を理解し、前向きな姿勢で真摯に取り組んでいる。自己評価は全員で進め、評価での課題に沿って実践できているかを確認しながら、より良いサービスの提供に努めている。運営者、管理者は職員の意見が自由に交わらせる過程を大切に、全員で取り組む環境作りに努めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議には半数以上の家族が参加しており、諸事情で参加できない家族に対しても時間等を工夫して、地域・家族と一緒に作っていくホームづくりに努めている。また、市の要請に積極的に協力し、運営者は「認知症サポーター講座」の講師になり住民に認知症の理解を広める貢献をしてきた。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月ホームだよりを発行し、ホームページには行事等の写真を載せ、家族からは普段の暮らしが分かると喜ばれている。家族の来訪時には、利用者のニーズ、家族の思いの把握を第一に考え、些細なことでも積極的に受け入れ、気軽に意見を言える雰囲気作りに努めている。現在、「家族会」のあり方を家族と話し合い、今年中に設置する方向で取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣の保育所や小学校の行事に参加する一方、七夕に子供たちが来てくれたり、保育所の子供達と一緒に敷地内の畑で芋掘りを楽しんだり等、交流する機会が多い。そういった交流が認知症の理解にもつながり、昨年開設3周年記念祭では、ホーム全体を解放し、大勢の参加者が集まり関心が深まった。区割りの狭間であって所属町内会がはっきりしないところから入会は難しい状況にあるが、外出での挨拶や会話など、近隣との交流は日常的にある。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設からの理念に沿い「生きる喜びを与えてくれたあなたにありがとう。心と心の繋がりを大切に」を基本に据え、その人らしい自由な生活を具体的な場面を通して支えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は管理者会議、ユニット会議、日々の申し送り等で共有している。場面ごとでの言葉かけの違い、また、職員側の判断で行っていないかを見極める視点を大切に、常に話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の保育所や小学校の行事に参加する一方、七夕に子供たちが来てくれたり、保育所の子供達と一緒に敷地内の畑で芋掘りを楽しんだり等、交流する機会が多い。そういった交流が認知症の理解にもつながり、昨年の開設3周年記念祭ではホーム全体を解放し、大勢の参加者が集まり関心が深まった。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、前向きな姿勢で真摯に取り組んでいる。自己評価は職員全員で進め、評価での課題に沿い実践できているかを確認しながら、より良いサービスの提供に努めている。運営者、管理者は職員の意見が自由に交わせる過程を大切に、全員で取り組む環境作りに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホーム状況を詳細に報告し、参加者から意見をもらうなど双方向的な話し合いの場を作っている。現在、半数以上の家族が参加しており、諸事情で参加できない家族に対しても会議の時間等を工夫して地域、家族と一緒に作っていくホームづくりに努めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の要請に積極的に協力し、運営者は「認知症サポーター講座」の講師になり住民に認知症の理解を広める貢献をしてきた。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホームだよりを発行し、ホームでの生活をそれぞれの立場から伝え、家族の来訪時には健康状態、金銭の取り扱い、普段の暮らしを報告している。ホームページには行事等の写真を載せ、海外に住む家族も閲覧ができ、家族からは普段の暮らしが分かると喜ばれている。個人的なものはパスワードで見れるように個人情報の保護に配慮している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者機関を設置し、管理者、職員は利用者のニーズ、家族の思いの把握を第一に考え、些細なことでも積極的に受け入れ、気軽に意見を言える雰囲気作りに努めている。現在、「家族会」のあり方を家族と話し合い、今年中に設置する方向で取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニットが交流する機会をつくり、顔馴染の環境に留意している。法人の新事業開設時に職員の異動もあったが、移動の1ヶ月前に新職員を採用し、一緒に業務をする中で交代時の混乱は特に見られなかった。利用者との馴染みの関係を大切に考え、利用者のダメージに配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者、管理者は職員の育成を積極的に進め、研修費用は必要に応じて事業所負担としている。年間の外部研修の受講回数は多い。新採用時には運営者、管理者の理念、方針の説明後、先輩に着いて業務に当たっている。職員は自主目標の経過を3ヶ月ごとに評価し、具体的な課題に沿って、良い面を伸ばす視点を大切に管理者と話し合っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各事業所の代表が参加する市内の「グループホーム連絡会」では、事例報告会を主催し、連携するグループホームで働く職員の質の向上に向け取り組んでいる。管理者、職員は「グループホーム広域連合会」の研修会にも定期的に参加し、交流や研修で得たことをケアに生かしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者は入居までの関係作りを大切にしており、本人・家族の見学を勧めたり、自宅や利用中のデイサービス事業所に出向き、本人が安心して入居できるように対応している。入居の希望者が多く待機者の関係にも留意し、月に1回は連絡を取り、状況の把握や相談にのっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の残存能力と得意な面を引き出す関わりの中で職員は日々教わっている。種まき、料理の味付けなどを教えて貰い、人生経験を通して頑張ってきた智慧、やさしさに触れ、人としての尊さを教えられる。職員は感謝の念を持って利用者に接している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを把握するため、一人ひとりとの会話を大切に意向を探っている。意思表示の困難な利用者には一瞬の表情も見逃さない気づきへの力を磨き、受け取ったことを連絡ノート、申し送りやミーティング、ユニット会議等で情報を交換し、家族とも話し合いながら本人の意向を検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、家族からの情報および各職員による日々の介護の中でのアセスメントを元にカンファレンスを行い、計画作成担当者が原案を作成する。これを家族に示して意向を確認した上で最終計画に仕上げている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとにモニタリングを行い、介護計画の見直しを行っている。健康状態の変化や入院になった時など、状態の変化があったときは、随時計画の見直しを行っている。日常の記録の中で常時、利用者や家族の状況、ニーズ、サービス提供と介護計画との照合を行い、ずれのないように確認している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を生かして、職員看護師によりホーム在住のまま治療を継続し、入院回避に努めている。本人、家族の事情に応じて通院介助を行っている。利用者家族のみならず、地域住民に対しても、各種相談の窓口となっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際、本人、家族の意向に従って受診医療機関を決めている。特に希望がなければホームの協力医を紹介する。多くは職員が通院介助するが、受診結果の連絡については、その要否、手段などについて家族と相談し実施している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期の対応について、詳細で具体的な指針が用意されており、入居時に本人、家族に説明し、納得が得られれば確認書面を交わしている。同意した指針については全職員、家族、看護師が常に話し合いをしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の守秘義務については採用時に教育を徹底している。勉強会やミーティングの折に、目上としての礼を失しない接遇や言葉遣いについて意識向上を図っている。文書類は種類ごとに事務室内に保管の場所を定め、管理は行き届いている		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは作っているが、時間で縛ることはない。各人の気分や健康状態に合わせて柔軟に対応しており、掃除など、緊急性の低い業務をやりくりして、利用者の希望を優先させている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立は、利用者の希望を取り入れながら職員が交代で作っている。利用者は買出しから食事づくり、後片付けに参加して、食事全体の過程を楽しんでいる。食卓には職員が同席して会話をしながら食事を共にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、午後の時間、入浴可能な態勢になっている。各人の希望に応じて、多い人は毎日、多くの利用者は1日おき程度の頻度で入浴している。1対1の介助なので、入浴はくつろいだ雰囲気の中で心を開いて話を聞く機会としても活用されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	女性では買い物から食事の支度、片付け、掃除、男性では雪かき、力仕事、畑仕事など多種多様な役割を分かち、壁を飾る装飾品づくり、歌、踊りなどを楽しんでいる。民謡大会や絵画展に出かけたり、演芸やお話のボランティアの来訪で楽しんだりしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ほぼ毎日のように近隣のお寺や山へ散歩に出かけ、時には車での遠出を楽しんでいる。日に何度も散歩することも珍しくない。車椅子の人もできるだけ出かけるように支援している。冬も寒さを押し外出を心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	朝7時から夜9時までは玄関に施錠しておらず、自由に出かけるのを基本としている。出かける利用者は職員が察知してさりげなく声をかけ、手紙の投函に出る利用者も、遠くで見守って自由に行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災避難マニュアルと連絡網は整備されている。春と秋の2回、消防署の指導、立会いの下に避難、消火器の使い方の訓練を行っている。	○	夜間を想定した訓練を計画中とのことであり、さらには近隣住民の協力参加、隣接の同一法人小規模多機能型居宅介護事業所との合同訓練も視野に入れているとのことなので、その実現を期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取は生活日誌に記載し、必要量の摂取を図っている。必要に応じてとろみ剤を使用したり、好みの食材を提供したりしている。グループホーム連絡会から管理栄養士による栄養指導を受けられるよう、室蘭市に働きかけ実施されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は全体に広々としてゆっくりくつろげる空間が確保されている。リビングの南面が大きく開けて見晴らしがよく、中央には吹き抜けの天窓があつて採光がよい。壁には写真や利用者の作品が飾ってあつて楽しい雰囲気を醸し出している。時計、日めくりも大きくて見やすい。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋全体が清潔で明るく整えられている。椅子、テーブル、タンスなどのなじみの家具や置物、家族の写真、記念品などが程よく配置され、心休まる生活空間が巧まずに演出されている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。